

県 広 報

とやま

特集/とやまは日本の公園
全県域公園化推進プラン

TOYAMA PREFCTURAL REPORT





永遠に見てもらえる 漫画を描いていきたい

漫画家 富永一朗さん

富永さんは、利賀村はまさに「文化の村」だと言います。「ここには、昔の芸術もあれば、現代の芸術もある。芸術で名を高めている点が素晴らしいところですね。」また、富山県が昔から好きでよくちよく足を運んでいるとのこと。「富山のイメージをひと一言で言えば、しつとりと落ち着いているということになるかな。おとなしい県、という見方もあるけど、そこがいいところなんですよ。」

昔は小学校の教師をしていたという富永さん。「当時は、自由教育をしすぎてね。ロマンのある学級にしようよ、〇年〇組の札を取っ払って、子供の村、なんていう大きな看板をかけたね。さすがに校長がとんできて怒られましたよ。教師でやっていけないんだから、一度しかない人生、一番好きなことやるかということになって漫画家になったんです。当時は食べる食えないなんて考えてなかった。」

数ある漫画の種類の中で、富永さんの描くのは大人を対象とした「一枚漫画」。「ぱつと見ただけですべてを物語る事ができればそれが理想。でもなかなか難しい。文学でいえば俳句かな。」

この漫画館には、富永さんの漫画五十点が収蔵されています。色鉛筆だけで描いた作品はどれも見たえのあるものばかり。「やっぱり、永遠に見てもらえるものを描きたい。いい絵を描いて歴史に残りたい、このひと言につきますよ。」

という富永さん。意欲溢れる若々しい笑顔がとても印象的でした。

四月二十八日、利賀村に「富永一朗とが漫画館」がオープンしました。きっかけは、富永さんが一昨年に利賀村へ講演に訪れたときにさかのぼります。「野外劇場の存在は以前から知っていたんだけど、瞑想の館の『曼陀羅』を見て、これはすごいと思いましたね。すぐさま村長に、自分の美術館をここに建てたいと言ったらすぐ、じゃあつくりましょうということになったんですよ。」



水平線を望むビック・スペース

日本海ミュージアム 海王丸パーク

レポーター:富山県立大学 山口優子さん

とやま遊学感



波をイメージした180メートルの回廊「緑のパーゴラ」



波のハンモックで思わず童心に...



船尾甲板にある船輪。帆走中は2人がかりで回します。



船を海上に留めるための巨大な錨(アンカー)

今回、私が訪れたのは、富山新港西埋立地にある日本海ミュージアム「海王丸パーク」。ここには、海の貴婦人、帆船海王丸が係留され、一般公開されています。

私はさっそく、このパークの見どころを海王丸記念財団の勝山さんに案内していただきました。パーク内にあるひとときユニークな形の建物や日本海交流センターです。展示スペースには、海洋資源開発に関するパネル、貴重な民俗資料である北前船の模型、海王丸のメインマストなどが展示され、船や海洋に関する情報を気軽に知ることができます。

ファミリーで遊ぶには、波のハンモックがおススメ。この日も、ハンモックで遊ぶ子供たちの楽しそうな歓声がこだましていました。

次に、海王丸の船内を案内していただきました。この日は総帆展帆が行われたとあって、船内は見物客で大賑わい。各種船室や器具を分かりやすく解説してもらいながら、船内を一回りしましたが、初めて乗船する私には興味深いものばかり。船尾にある舵を手にしたときは、大海原を行く帆船のロマンに触れたようでした。

また、パーク内には、日本海の味覚の販売コーナー(お魚センター)や食堂、緑いっぱいのでピクニック広場などもあり、見る・食べる・遊ぶを一緒に楽しむことができます。みなさんもぜひ海王丸パークに足を運んでみてください。

海王丸展帆日程

展帆予定日	展帆作業時間	乗船時間
6月5日(日)	午前10時	午前11時30分
7月3日(日)	}	}
8月6日(土)		
8月28日(日)	午前11時30分	午後3時

6 CONTENTS

6月号もくじ

- 表紙 撮影/赤羽仁諭(富山県写真家協会会員)
- 表2 とやま遊学感/海王丸パーク
- 1 ひとアズとやま/富永一朗
- 2 クローズアップ・県政の動き
- ① 農業技術センターバイオ棟竣工式
- ② 有峰林道小口川線舗装完了
- ③ 「富山県友好代表団」派遣
- 4 特集/とやまは日本の公園
- 8 全県域公園化推進プラン

- 8 PINUPTOYAMA
- 写真/谷川昭夫(富山県写真家協会会員)
- 詩/青塚与市(富山現代詩人会会長)
- 10 ふるさとみである記(庄川町)
- ① 庄川美術館
- ② ゆず生産組合
- ③ チャレンジ2010
- 12 エッセイ/青木真門
- 13 高校総体を成功させよう⑥
- まなびピア'94の概要⑥
- 14 県からのお知らせ
- 16 暮らしのアドバイス
- 表3 とやまの祭事記/お田植え祭り(下村)

バイオテクノロジー

4/19

バイオテクノロジーを駆使して品種開発

富山県農業技術センターバイオ研究棟竣工式

四月十九日、県農業技術センターバイオ棟の竣工式が行われました。この研究棟は、農産物をめぐる新しい事態に対応するため、バイオテクノロジー等の先端技術を駆使した新品種の開発・育成をはじめ、付加価値の高い農産物の生産技術の開発を進める拠点となるものです。式では、堀田農林水産部長が「たくましい富山県農業の確立のため研究成果を上げ、農業従事者の期待に応えたい」と



▲県農業技術センターバイオ棟



▲モニュメント「生命の賛歌」の除幕

あいさつ。平岩農業技術センター所長による概要報告に引き続き、高岡短期大学の谷口義人教授作のモニュメント「生命の賛歌」の除幕が行われました。テープカットの後、式出席者たちはバイオ研究棟施設を見学。研究員たちは興味深く聞き入っていました。この研究棟の完成は、今後の富山県農業の振興に大きな役割を担うものと期待されます。



▲培養室にて品種改良の実験

5/4~16

日中両国の友好の架け橋に

「富山県友好代表団」派遣



富山県・遼寧省友好県省締結十周年を記念して、中沖知事を団長とする「富山県友好代表団」が派遣されました。一行は、大連、瀋陽（しんやう）各地を訪問。児童書画展や知事の講演会が開かれたほか、友好十周年の記念式典では、「富山県・遼寧省友好記念奨

7/1

自然公園へ新たなアクセスルート

有峰林道小口川線が七月供用開始

有峰県立自然公園への新たな進入路となる「有峰林道小口川線」の舗装工事が三月末で完了し、七月に供用を開始することになりました。この林道は、大山町水須から有峰湖周ラインにつながる不動谷までの延長二十四・九キロ。これまでの小見線とあわせて利用することにより有峰湖などの自然公園を訪れる新たな周遊ルートが設定できることとなります。沿道の美しいブナ林、葉師岳のすばらしい眺望、神秘的な祐延貯水池など、従来の林道にはなかった自然資源を満喫できる高原ルートとして、多くの県民に利用されることが期待されます。



▲林道小口川線

供用開始	七月一日（予定）
供用期間	七月一日～十月三十一日
供用時間	午前六時～午後八時
通行料	大型車 三千五百円 小型車・普通車 千五百円 自動二輪車等 二百五十円

※大型観光バスの通行は不可

県政の動き

H6. 4月11日～5月10日

- 4月11日 保育専門学院入学式
- 4月13日 総合衛生学院入学式
- 4月14日 平成6年度富山県婦人週間の集い 警察音楽隊「ふれあいコンサート」
- 4月19日 農業技術センターバイオ棟 しゅん工式
- 4月27日 第45回植樹祭
- 4月29日 銀座みゆき通りチューリップカーペット
- 5月1日 海王丸フェスティバル(3日、4日)
- 5月3日 立山山麓グリーンドキュメント (~5日)
- 波谷パラダイス-花の祭典-
- 5月4日 緑に親しむつどい 「富山県友好代表団」派遣(~16日)
- 5月8日 「看護の日」ふれあいトーク



▲大連便開設に向けて、協力を要請する協定書の調印(中沖知事・遼寧省常務副省長 聞世慶氏)



奨学金制度に関する協定書の調印(中沖知事・遼寧省常務副省長 聞世慶氏) ました、「馬軍団」の異名をとる遼寧省体育運動技術学院の馬俊仁コーチの陸上チームから、コーチ一名と女子選手二名が来県し、県内選手を指導することが決まり、県スポーツ界では大きな期待を寄せています。一行は友好関係を改めて確認、今後親善の輪を一層広めようと誓い合い十六日帰県しました。

「全県域公園化」の 実現に向けて

全県域公園化推進プランは、望ましい県土の将来像を提示し、今後の各種の施策のよりどころとなることを基本目標としています。全県域公園化のための各々の施策は、おのずと目的や対象とする範囲等を異にします。そのため本プランは、個々の施策を体系化し有機的に結びつけています。

今、公園化を考える時、公共的な空間だけでなく、私的空間までを含めたあり方が、重要な意味を持つと考えられます。本プランは、行政と県民が一体となった取り組みを展開していく上での基礎として、全県域公園化への取り組みについて県民に提示し、広く理解を求めようとするものなのです。

「全県域公園化」とは

「全県域公園化」は、人々がうるおいとやすらぎを感じながらさまざまな活動を展開できる美しい県土づくりを進めるものです。したがって単に公園を整備するだけでなく、公園以外の部分についてもできる限り美しく彩ることが必要です。また、公園どうしを各種の道路で結び、景観のネットワーク化を図ることと、富山県の県土を特徴づける豊かな自然環境の保全が「公園化」の前提となります。

このようにして、うるおいとやすらぎのある空間を広げていき、全体として眺めてみれば、あたかも公園のように感じられる県土をつくりだしていこうとするのが「全県域公園化」です。

特集

とやまは日本の公園

全県域公園化推進プラン

身近な自然が次第に失われ、景観を損なう工作物が数多く見受けられるようになった今日、美しい景観や親しみの持てる水辺などに対する関心が高まりつつあります。

このたび県では、「とやまは日本の公園」のローガンのもと、「全県域公園化推進プラン」を策定しました。このプランはあたかも公園のような県土づくりをめざすための方策を明らかにし、県民に分りやすく提示するのがその目的です。



エリアづくり

やま、さと、まち、うみ、かわなど県土の要所となるエリアを花と緑、清らかな水で彩り、公園化の素地を整えていく。

拠点づくり

豊かな自然や歴史・文化とふれあい、楽しむことのできる多様な公園を体系的に整備し、全県域公園化の拠点としていく。

回廊づくり

拠点となる美しい景観や公園を結びつけ、人々の利用を促すとともに、全県域公園化の重要な利用軸としていく。

「とやま」
全県域公園化
3つの柱

3 施策の体系

全県域公園化は、次の三つの柱によって展開されます。

とやま
は日本の公園
特集

4 地域別の「公園化」

三つの柱から「公園化」をすすめていくにあたって、本プランでは県土を大きく三つのゾーンと三つのベルトに分けて、これらのゾーン、ベルトごとに目標を設定しています。また、それら各々について様々な施策が計画あるいは進行中ですが、その主なものを紹介します。



3つのベルト



みちのベルト



かわのベルト



うみのベルト

沿道環境と一体となった緑の道路軸

県土を縦横断する動脈として、緑と花で美しく修景し、公園道路として創造していく。

●富山の道BIG作戦

富山の道をきれいに (Beautiful) 個性的に (Individual)、緑豊かに (Green) するたため、BIGをスローガンに、親しみと誇りのある道路整備をすすめています。

自然との調和を象徴する水と緑の河川軸

県土の中で明確な存在感を与える母なる川として県民の心のよりどころとしていく。

●ふるさとの川モデル事業

黒部川扇状地を流れる高橋川では、安全でうおいのある水辺空間の創出を目指し、名水の里・黒部の顔となる川づくりに取り組みます。また、富山市内を流れる赤江川では、稲荷公園と一体化することにより、伸びやかな河川景観創出に取り組んでいます。

新水性の高い美しい海辺の海岸軸

新水性の高い、生活に活かされたうるおいのある環境を創造する。

●日本海ミュージアム構想

帆船海王丸の富山県誘致を機に策定され、二〇一〇年頃を完成目標にすすめられている、雄大かつ多様な計画。この構想の推進により、富山新港西埋立地に、人と海が会いふれあえる、個性的で楽しいマリタイムフロントが創り出されます。

3つのゾーン



まちのゾーン



さとのゾーン



やまのゾーン

自然環境を活かしたリフレッシュゾーン

県民の宝ともいえる、第一級の自然公園として維持していくとともに、自然教育の場として利用していく。

●美女平・ブナ平地区整備 (立山利用拠点施設整備事業)

山岳景観とは別に、立山のもう一つの大きな魅力となっている「タテヤマスギ・ブナの原生林」に、ふれ親しむことができるよう、原生林を回遊できる探勝歩道を整備します。

四季感あふれる田園ゾーン

富山の風土をなす四季の変化を感じさせる生活の風景を創出していく。

●農村総合整備モデル事業

農道や用地の整備のほか、農村公園施設を整備していきます。特に農村公園は、平成五年度まで九十か所余りつくられ、今後も約三十か所の新設が予定されています。

意匠のこらされた都市ゾーン、

落ち着きある快適生活ゾーン

いこいとふれあいの場を整備し、活力ある魅力に富んだ都市景観を形成する。

●都市計画公園カナルパーク整備

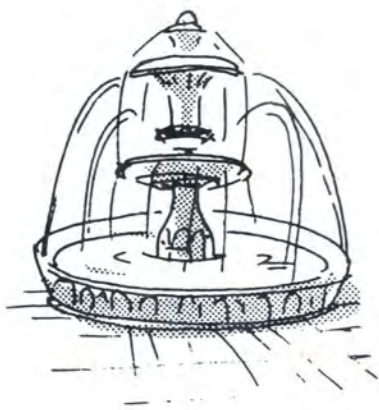
二十一世紀における県都のシンボリックオアシスとなるよう、富山駅北地区で展開される計画。運河や都市内河川などの水環境を活かし、人と自然が調和した親水環境を創出します。また、ここに各種文化施設やイベント広場を配し、文化的な都市機能を充実させます。

一人ひとりが景観づくりの 主役

すぐれた景観は、決して行政の取り組みだけで形成されるものではありません。県民一人ひとりが美しい地域づくりに取り組むことが、全県域公園化の土台となっているのです。

家庭や地域、学校など、身近なところから花や緑を増やしていきましょう。また、森林浴や自然観察などを通して、自然や景観を愛する心を育てることも大切です。

行政と県民運動が車の両輪となり、「とやまは日本の公園」を合言葉に、美しい県土づくりに取り組んでいきましょう。



光きらめく緑の崖を
いつきに雪崩れ落ちる
白い滝の音声

その淨らかな滝のしぶきに
あざやかに いつも
虹が匂い立ち 揺らぎ
アヤメ咲く山麓の
家々の軒につりさがる
くろがねの風鈴を呼びます



庄川町

ふ・る・さ・と
み・て・あ・る・記

誰からも
親しまれる
美術館を目指して

松村外次郎記念町立庄川美術館



杉森館長

現代日本の彫刻界を代表する一人、庄川町出身の故松村外次郎氏が、自らの作品三十六点を同町に寄贈したのを機に平成元年十一月に設立されたのがこの美術館である。平成二年、氏が亡くなった後も遺族から作品の寄贈があり、現在では収蔵数も二〇〇余点に及んでいる。

「松村先生の作品というソフトには恵まれたものの、どのように美術館を運営していくかというノウハウはゼロに等しかった。」と杉森館長は当時を回想する。「まず、既存美術館にはない特色をいかに出していかうかがということが最初の課題でした。庄川町にあるがゆえのカラーを出していきたい。そのために、県西部の作家の作品を中心にジャンルをとわず取り込んでいくことにしました。また、専門

家の目線ではなく、一般の方々に楽しんでもらえるものを展示していこうということになったんです。」

今では、年九回の企画展や絵画の実技講座も開催している。実技講座には、町内外からの参加があり、実技の成果を発表する場も設けられているそう。またこの六月には、松村作品の集大成といわれる中国の四神を扱った「四神の誕生」が開催される。この展示では、一つの作品を完成させるまでの創作過程を辿ることができ、氏の彫刻にかけた情熱、そして、優しきを感じとれるに違いない。



活動を通して若者に活気を

チャレンジ2010

今や庄川町のシンボルとして親しまれている庄川町水記念公園。ここで毎年夏に開催されている庄川水まつりのメインイベントが「流木乗り大会」である。

この大会を中心となって運営しているグループ「チャレンジ2010」の代表武田さんに話を伺った。「流木乗り大会は今年で第8回を迎えますが、年々内容は充実してきています。当初団体戦のみだったものが、レディースが加わり、今年からは個人戦も行うんですよ。」また、近年は参加の輪が県外まで広がっているそうだ。

「活動をとおして、庄川町の若者に活気をもたらし、子供たちに夢を与えていきたいですからね。」と明るく語る武田さん。2010年の庄川町の明るい未来を望んで命名されたこのグループ名に、その思いがこめられている。

今年も7月30日～8月7日に庄川水まつりが開催される。流木乗りをはじめチビツカラオケ大会、模擬店などのイベントが盛りだくさん。皆さんも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲チャレンジ2010代表
武田武美さん



▲流木乗り選手権大会

次々に開発されるゆず製品

庄川町ゆず生産組合



▲ゆずのママレードを製造中



香りの良いゆずができるのでやりがいがあります。」と有沢さん。金屋地区の寒暖差が大きい気候風土が栽培に適していることなどもあって、今では品質的にも高い評価を得ている。

さて、ゆず生産組合では今まで「ゆずみそ」「ゆずママレード」「ゆずの佃煮」といったヒット商品を次々に産出。さらに現状に満足することなく、新製品を開発し続けている。

入浴剤、御粥おかゆとしてアイスクリームが、最新作。特にほのかなゆずの香りと鮮やかなゆず色をしたアイスは庄川町でイベントが開催される時にしかお目にかかれない逸品だそう。イベントに行つて一度食されてはいかがでしょうか。

庄川町の概要

・人口7,422人 ・面積3,077ha (平成6年5月1日現在)

水の里、木の里といわれる庄川町。昔から、庄川の流れを利用した木材の輸送が盛んで、それが伝統産業の挽物木地を育んだ。そんな町の魅力を一堂に集めた水記念公園には、水とともに生きてきた庄川町の歴史を知ることができるアクアなないろ館、木の香りや温もりを広く紹介する庄川ウッドプラザ、自然水圧で動くユニークな大噴水などがあり、安らぎと憩いのスペースになっている。また、庄川峡の四季折々の景観は多くの観光客の目を楽ませる。





宇奈月に所用があつての帰路、なるほど扇状地の要に似つかわしい扇の要の穴のようなトンネルだな、と思ひながら愛本トンネルを抜けると、光の海だった。一瞬どきつきとして、車の速度を落とした。黒部扇状地が、一枚の巨大なガラスのよう光っている。不思議な感動が全身をよぎった。何かに突き動かされるように、車をUターンさせて愛本橋を渡り、舟見街道へ向かった。

舟見へ向かう道は、少し高台にある。あそこからは、先の地点で見えなかった東側の平野も見え、黒部扇状地全域が見えるだろうと思つた。舟見街道へ出ると、蛙が遡上する時のように、心が昂ぶっている自分に気づいた。この道は、私のふるさとへ向かう道でもあつた。

見晴らしの良い所で車から降り立つと、見渡す限りの水田の彼方に春の夕日が正面にあつて、先とは違った光景が広がつていた。砺波平野と変わらぬ散居のかいよが、黒い塊となつて、夕日に映える紅の海に点々と浮いているようにも見えた。夕日は西の空を薄紅に染めながら、はにかむように沈みかけている。富山市へ戻る私は、入善へ向かつて車を走らせながら、今日は五月六日であることを、ふと思つた。今から百年前に一人のアメリカ人が、

「越後と越中海岸の難所を越えて、午後遅く富山平野へ出るまで二日間を要してしまつた。平野の中心部に近づくにしたがい、立山連峰の巨大な峰が、まだ青白い毛皮のコートをすっぽり着て、麓の群小の山々を従えながらそばに立っているのが目に入ってきた」といふ、この黒部平野へ足を踏み入れたのが、明治二十二年の五月六日であつた。

そして、「夕闇がただよい、道は幾マイルも蛙で仕切られた田圃の間を縫つてつづき、五六百フィートごとに、よく刈り込まれた生垣や、樹木に囲まれた農家の前をよぎる。そして、しばらく進むと、村落があり田舎道は村道へと変わる。土地は先祖伝来の家々のたむろする、田圃の海の中に浮いていた島とでも形容できようか。人家のある辺りの鬱蒼とした木々の茂みがありにも周囲の風景から目立ちすぎるので、その付近を通るとき、ふと平地を走っていることを忘れてしまふ」といふ、この地を訪れた最初の西欧人は、私が今走っているあたりを人力車で通つて、三日市で一泊するのである。

私は、村道から海に向かって広がる水田風景を見ながら、このパシバル・ローエルが通り抜けた百年前も今も、なにも変わつていないように思えた。変わつていゝのは、道がアスファルトになつていゝのと、時々かいによの中へカラフルな車が入りするくらゐなものである。入善町に近づくにしたがつて私は、少し感傷的になつていた。私の生まれた村が見えてきたからである。累々と何百年も続いた屋敷跡の方角を見ると、すべてが闇に消え、ただ夕映えの水田だけが光つていた。

(注) 屋敷林

大会成功に向けスタート!

平成6年度全国高等学校総合体育大会
式典運営本部・記録センター・総合案内所発会式開催!



七月三十一日から、本県で開催される平成六年度全国高等学校総合体育大会の式典運営本部・記録センター・総合案内所の発会式が、役員・係員など担当者約七〇〇人を集め、五月十六日、富山県教育文化会館で開催されました。

はじめに、県実行委員会式典運営本部長の克枝信朗県教育長が「日本一の健康スポーツ県を目指す富山県として、大会の成功に向け総力をあげたい。」とあいさつ。つづいて、細呂木県実行委員会事務局局長が準備経過や大会の概要を説明し、昨年開催された栃木大会の記録映画を試聴しました。

このあと、総合開会式の衣装が発表され、公開演技などに出演する生徒や運営本部の役員・係員らのユニホームから十一点が披露されました。最後に、式典運営本部、記録センター、総合案内所の各事業別に組織や事業計画の打ち合せを行い、大会成功に向け決意を新たにしました。

高志のくからひろがる学び

第6回全国生涯フェスティバル

開催期間=平成6年10月6日(木)から10日(月)の5日間
開催地=富山市・高岡市・黒部市・砺波市・小杉町
協賛事業:平成6年9月1日(木)から11月30日まで県内全域で実施



デザイン:石ノ森章太郎



富山大会の参加事業は 過去最多の二五九

「サラリーマンのための生涯学習や環日本海交流イベントなど、多彩に、華麗に!」
参加事業数は、現在二五九事業と昨年の愛知大会の二五四事業を上まわり、過去最多となりました。サラリーマンのための生涯学習や環日本海交流イベントなど富山らしい工夫が取り入れられています。子供向けから大人向けまで、くらしに密着したものから専門的なものまで、生涯「学習」を提案し、全国にアピールするさまざまな事業が展開されます。
開幕まで、あと一三〇日。十月六日の開幕に向けてガイドブックの作成など、県民が幅広く参加できるよう準備作業も本格化しています。

富山を旅した西欧人に思いを馳せて

青木 新門



越中・能登の国境の荒山峠



農家の娘たち(富山付近)

「内の文は、『NOTO・能登・人に知られぬ日本の辺境』(十月刊)パシバル・ローエル著、宮崎正明訳より抜粋
パシバル・ローエル (一八五〇—一九三〇)
冥王星の子知発見者として、また火星の研究者として著名なアメリカの天文学者。
明治時代に四回来日し、四冊の本をニューヨークで出版した日本研究者でもある。明治二十二年に、富山県各地や能登半島に九日間滞在したときの紀行文をニューヨークで『NOTO』として出版。この旅行で最も多く滞在したのが富山県であり、紙面も多く費やされているが、富山県ではそのことが、ほとんど知られていない。
筆者プロフィール
冠婚葬祭会社役員を務めるかたわら創作活動を続け、詩集『雲原』、小説『白い手』などを執筆。昨年出版された『納棺夫日記』はベストセラー。

●お知らせ●

第4回ポスター・トリエンナーレトヤマ1994
富山県立近代美術館では、7月2日(土)から9月4日(日)まで「第4回ポスター・トリエンナーレトヤマ1994」を開催します。
この展覧会は、日本で開かれる唯一の世界公募のポスター展で、ウルシャワ(ポーランド)、ラハティ(フィンランド)、メキシコでの展覧会と並んで、世界の四大ポスター展の一つとして数えられています。
世界のポスター作品三〇点、そして日本、世界を代表する審査員十二人の作品の最先端のポスターデザインを御覧ください。
観覧料 一般950(750)円
高・大学生700(500)円
小・中学生400(300)円
※()内は団体料金
問合せ 富山県立近代美術館
☎0764・21・7111

「富山県優良宅地取得資金融資」申込案内
県では、住宅を建てるために、県または、富山県住宅供給公社が造成した宅地を購入される方に対して、低利で資金を融資しています。融資を受けられる宅地及び融資の内容については、次のとおりです。
(1)融資対象宅地
大岡山団地、金戸団地、月岡西緑町団地、蔵本新団地、森尻団地、上条団地
(2)申込受付期間
平成6年5月2日(月)～平成7年2月28日(火)
(3)融資限度額 250万円
(4)融資利率 年4.1%
(5)償還期間 20年以内
(6)申込受付場所 住宅金融公庫業務取扱金融機関の窓口
(7)問合せ
・県住宅供給公社 ☎0764・32・5131(代)
・県庁建築住宅課 ☎0764・31・4111(代)

巡回就学相談会のお知らせ
富山県心身障害児就学指導委員会及び富山県教育委員会では、心身に障害のあるお子さんの健やかな成長を願って、心身の発達についての心配事や家庭でのしつけ、教育について、専門の指導者が相談に応ずる巡回就学相談会を次のとおり実施します。
日時 6月25日(出) 18時30分開演
問合せ 高岡文化ホール ☎0764・25・4141

「富山県埋蔵文化財センター 企画展「よみがえる古代 ー原始、古代人の豊かな生活ー」
県内の遺跡から出土する生活の道具や祭祀に関わる考古資料を通じて、大昔の人々の知恵や工夫に想いを馳せ、当時の生活の一端を今によみがえらせます。
期間 平成6年6月8日(水)～10月13日(木)
休館日 土曜日、日曜日、国民の祝日
入館料 無料

2、実施の方法・時期
(1)所得税
・給与所得者 1月から6月までの給与等の源泉徴収税額の20%相当額(最高100万円)を、原則として6月に還付。残額は年末調整の際に控除。
・事業所得者 確定申告の際に控除。
・予定納税(7月、11月)をする場合は、予定納税基準額の計算に特別減税を加味。
・個人住民税
・給与所得者 均等割額及び所得割額ともに6月及び7月分を徴収せず、残りの減税額は、8月から来年度5月までの10か月間に控除。
・事業所得者 6月分(第一期)において、特別減税額を控除。
なお、詳細については、もよりの税務署または、市町村役場へおたずね下さい。

【みなさんの相談窓口】

- 県政について
県民相談室 富山市新越曲輪1-7(県庁内) ☎(0764)31-4111(代) 31-3131(県民相談電話)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤松211(総合庁舎内) ☎(0766)21-9411(代)
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内) ☎(0765)24-5311(代)
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎(0763)33-5151(代)
- 物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
- 消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内
(一般相談は) ☎(0764)32-9233
(金融相談は) ☎(0764)32-3252
消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
- 交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階 ☎(0764)31-4111 内4400
- 相談110番 相談
家庭問題・悪質商法・覚せい剤など、どんな相談にも応じます。☎(0764)42-0110
- シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内 ☎(0764)41-4110

【県からのホットニュース】

- テレビ広報
■チューリップテレビ 毎週土曜日 AM9:30～9:45 「志の輔のふるさとトーク」
- 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30 「112万人のひろば〜クイズ/フォーカス/イン」
- 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30 「こんにちは富山県です」
6/5 歯の健康づくり(学術放送)
6/12 農業を支える技術開発
6/18 私たちのふるさとづくり ～小矢部市～
6/26 インターハイを成功させよう
- ラジオ広報
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
- 新聞広報
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からののお知らせ」

【7月街頭献血日程】

日曜日	献血場所	時間
3日	小杉町「バスコ」ショッピングセンター前	10:00～15:30
6日	福野町役場前	12:30～15:30
11日	入善町役場前	12:30～15:30
14日	朝日町役場前	9:30～11:30
17日	富山西武デパート前	10:00～16:00
18日	高岡市役所前	9:30～15:30
24日	氷見市「ハッピータウン氷見」ショッピングセンター前	10:00～15:30
25日	黒部市役所前	9:30～12:00
31日	JR富山駅前	10:00～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等で確認下さい。
○富山県赤十字血液センターでは、毎土曜日の午後も開所し(祝祭日除く)、献血を受け付けています。
富山県赤十字血液センター
富山市飯野26-1 TEL (0764) 51-5555

日程 8月1日(月)・2日(火) 魚津総合庁舎
8月3日(水)・4日(木) 高岡総合庁舎
8月3日(水)～5日(金) 砺波総合庁舎
問合せ・申込み 教育記念館
☎0764・44・3451

所得稅・住民稅の特別減稅について
景気回復を着実なものとするため、所得稅及び個人住民稅について、次のとおり特別減稅が実施されます。
1 特別減稅の額
平成6年分の所得稅額の20%相当額(最高200万円)
(2)個人住民稅
平成6年度分の個人住民稅所得割額の20%相当額(最高20万円)

富山県埋蔵文化財センター
富山県埋蔵文化財センター
☎0764・34・2814

県営高岡駐車場が24時間営業を開始します。
JR高岡駅前の県営高岡駐車場が7月1日から24時間営業となります。料金は次のとおりです。

種別	単位	金額
普通料金	基本料金	1時間まで 309円
	加算料金	昼間(7時から22時まで) 1時間を超える時間30分までごとに103円 夜間(22時から翌日7時まで) 1時間を超える時間1時間までごとに103円
回数券料金		基本料金券11枚つづり 3,090円
定期駐車券料金	全日(24時間)	14,420円
	夜間(19時から翌日8時まで)	8,240円

※普通料金については、10円未満を四捨五入した額とします。

●啓発●

6月は環境月間です
我が国では6月の1か月間を毎年「環境月間」と定め、環境保全に関する各種の行事が実施されます。
本県においても、「地球とはもつとよくなかなるはす」をテーマに環境保全に関する各種行事を実施します。
○環境保全に関するポスター展
(時期) 6月の環境月間中
(場所) 自然博物館わいの里、大和富山店他
○第11回富山県清掃美化大会
(時期) 6月26日(日)
(場所) 黒部市宮野運動公園
問合せ 県庁環境政策課
☎0764・44・3141

梅雨時の災害に備えましょう
例年、梅雨時は、長雨や集中豪雨等により洪水や山崩れ等の災害が発生しやすくなります。
被害を最小限にするために、日頃から災害に備えましょう。
(1)家庭での備え
避難場所への経路や方法について家庭で話し合っておきましょう。
素早い避難ができるように、「非常持出品」をまとめておきましょう。
(2)地域ぐるみの備え
地域の地形や地質、過去の災害発生等もつかんでおきましょう。
さらに、地域ぐるみで、避難場所や連絡方法等も決めておきましょう。

●参加募集●

ボランティア募集
富山県教育委員会では、県立盲学校、ろう学校、養護学校が毎月第2土曜日に行う学校開放で、その活動に協力していただくボランティアを募集しています。
(経験不問)

「とやま花と緑の写真コンテスト」作品募集
富山県内に咲く花(自生、植栽)、自然の緑、緑化木(街路樹、町並み、庭木)や「花と緑」とのふれあい風景など花や緑を取り入れた作品を募集します。
○規格 単写真 キヤビネサイズ以上
組写真 各キヤビネサイズ以上
○応募資格 どなたでも応募できます。
○応募点数 未発表のもので、一人三点以内
○応募締切 平成6年8月22日(月) 当日消印有効
○応募先・問合せ
〒939-127 婦負郡婦中町上善田42
(財)花と緑の銀行「花と緑の写真コンテスト」係
☎0764・66・2425

・花と緑の銀行支店(各市町村花と緑の担当課)
・富山県カメラ商組合加盟店



安く旅行に行けるはずだったのに
若者が狙われるアポイントメント商法

「昨日、男性から電話があり、「会員になると特典として海外旅行が格安で行けるんだけど入会しませんか。アンケートも取りたいので話だけでも聞いてほしい」と近くの喫茶店に呼び出されました。そこで四時間程、旅のためには英会話が必要である、と言われビデオ教材の説明を受けました。海外旅行が格安で行けるのが魅力的だったので、つい六十五万円のビデオ教材の購入契約書にサインをしました。家に帰ってよく考えてみると高額商品なので解約したいのですが、どうしたらよいのでしょうか。」(富山市二十才の女性)

「海外旅行が格安で行ける会員になりませんか」「パーティーやイベントを企画し、参加する人を集めているのだけだ」といふ言葉で、男性には女性が、女性には男性が電話をかけ、ホテルや指定会場などに呼び出し、会員になった場合の特典を延々と説明し、最後に目的の商品(ビデオ教材やダイヤの指輪など)を購入させてしまう商法をアポイントメント商法といいますが、

このような商法による商品は、訪問販売法の適用を受けず、申込みまたは契約の日から八日以内ならば無条件に解約できるクーリングオフ制度が適用されます。しかし、クーリングオフの期間が過ぎた場合は業者の応諾が必要で、なかには全く解約に応じない業者もいます。

この事例の場合は、クーリングオフの適用できる期間内であったので、書留で解約の意思を伝えるよう指導し、解決しました。アポイントメント商法で高額商品の購入を求められた場合は、特典等に惑わされず、冷静に考えて判断しましょう。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、
高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

★富永一朗さんは、何と大正十四年生まれ！来年七十歳になるというから驚きだ。若さの秘訣はやはり、ストレスをためないこと。富永さんの場合は、弟子を取ったりすると、かえって気を使い、余計にストレスがたまるそう。僕が弟子を取ったなら、原稿、取材全部やってもらって、ストレスなど微塵も感じないだろうに……Y君、僕の弟子になりませんか？(K)

★久しぶりに使う一眼レフ。気合いを入れて撮影してみたが、できあがりを見て……改めて難しさを思い知らされた。そもそも写真というのはスポーツと同じで日頃の鍛錬が大事といわれる。カンを養うには毎日撮り続けるのがいい。あーっとそこのお嬢さん、ちょっとモデルやってみませんか？(N)

★今回初めて自分の書いた原稿が広報誌に載る。このことは、素直に感激したい。しかし、これまでの過程は失敗だらけだった。特に原稿を書く段階では稚拙な文しか書けず、結局は周りの先輩方の足をひっぱるだけの存在となってしまった。どこかに、上手な文章を書けるようになる、そんな夢のような葉はないかなあ。(Y)

六月

とやまの祭事記

五穀豊穡の祈り
お田植え祭り

下村・加茂神社



川辺などにはえるマコモで形どった神様に五穀豊穡を祈願する下村・加茂神社の「お田植え祭り」は六月の最初の「卯の日」に行われる。祭りの日、氏子たちがマコモで二十cm程と五十cm程の大小の神様を作り祭壇に祭る。祭壇にはモチ苗と赤飯が供えられる。境内の砂でつくられた仮田で、宮司がモチ苗を地面に並べ田植えのしぐさをする。やがて神様に向かった宮司は背を向けたまま大きな方の神様を投げ上

げ、氏子たちはそれを我先にと奪い合う。拾った者には今年一年の幸運と豊作が約束されるといふ。九百年の伝統を持つといわれるお田植え祭りは、北陸ではこの下村だけに残っているものであり、民俗学上貴重な伝承でもある。田植えも終わり、祭りに集まった近郷の人たちに笑みがこぼれる。そろそろ稲の緑がまぶしくなる季節である。

(参考文献 富山の習俗)



今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真
を抽選で5名の方にワイド六ツ切(25×18
センチ)でプレゼントします。希望される
方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込
みください。8月16日消印有効です。

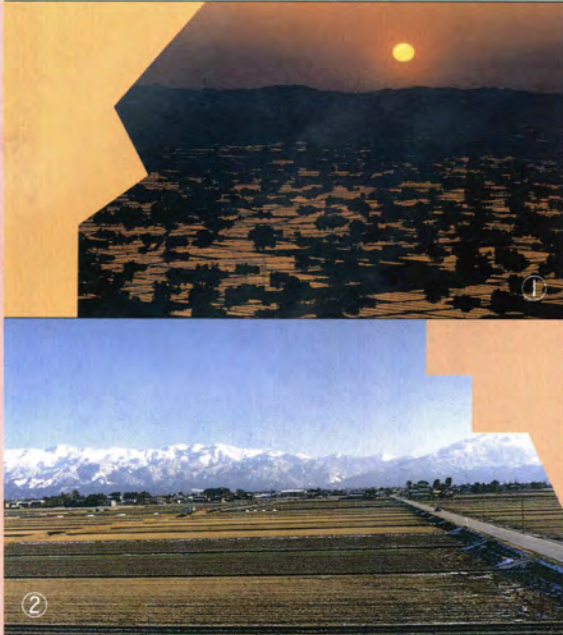
氏名	富山市新総曲輪1-7
住所	富山県広報課
電話番号	写真プレゼント
	6月号係あて

本誌を読んだ感想

「ふるさとのながめ 写真コンテスト」

作品募集

より多くの県民に美しいふるさとの四季を知っていただくため、
「ふるさとのながめ写真コンテスト」を実施します。



- ① 砺波散居村展望台付近
砺波市五谷庄川町隠尾
- ② 入善木根地内三島付近
入善町木根
- ③ 高岡金屋町通り
高岡市金屋町
- ④ 滑川行田公園
滑川市上小泉
- ⑤ 高岡雨晴海岸義経付近
高岡市太田

募集作品
「ふるさとのながめ」に選ばれた100の地点から撮影された作品に限ります。

応募資格
どなたでも募集できます。

募集期間
(夏、秋の部) 平成6年9月1日～平成7年1月31日
(冬、春の部) 平成7年7月1日～平成7年9月30日

※応募要領は、市町村の窓口やお近くのカメラ店で。
問合せ 県庁県民生活課 0764・44・9616